

(2) 医薬品を動かす・確保する

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《医薬品の管理・供給・保存》					
1. 医薬品管理の流れを概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H201の実習中	口頭試験
2 [△] . 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。					
3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。					
4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H202の実習中	口頭試験
5 [△] . 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H203の実習中	口頭試験
6 [△] . 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H203の実習中	レポート
7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H204の実習中	口頭試験
8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H204の実習中	観察記録
《特別な配慮を要する医薬品》					
9 [△] . 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H205の実習中	観察記録
10 [△] . 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。(技能)					
11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。(技能)					
12 [△] . 法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	H205の終了時	レポート
《医薬品の採用・使用中止》					
13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H206の実習中	口頭試験
14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。					

(3) 情報を正しく使う

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病院での医薬品情報》					
1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H301終了時	口頭試験 または 客観試験
2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。					
3 [△] . 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。					
4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。					
《情報の入手・評価・加工》					
5 [△] . 医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H302 演習・実習中	実地試験 口頭試験
6. DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H303 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
7 [△] . 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H304 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
《情報提供》					
8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	H305 実習中	実地試験 (プロダクトを評価)
9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H305 実習中	観察記録
10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H306 実習中	実地試験 (プロダクトを評価) 観察記録
11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	H307 実習中	実地試験 (口頭で確認)

(4) ベッドサイドで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《病棟業務の概説》					
1. 病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など)を概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H401実習中	口頭試験
2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	H401実習中	口頭試験
3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。(知識・技能・態度)	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師	H401実習中	観察記録
《医療チームへの参加》					
4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録 口頭試験
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 (状況に応じて医療スタッフ)	実習中随時	観察記録 口頭試験
《薬剤管理指導業務》					
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能)					
7. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時	観察記録 レポート
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能)					
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)					
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	実習中随時	口頭試験 レポート(具体的な症例に対して)
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。(技能・態度)					
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。(技能・態度)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。(技能・態度)					
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。(知識・技能)					
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 観察記録
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から、気づくことができる。(知識・技能)					
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
19. 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	観察記録
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	実地試験 (プロダクトの評価)
21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 実地試験
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	実習中随時 (3回程度)	口頭試験 実地試験
《処方支援への関与》					
23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	H408実習中 実習後	観察記録 レポート
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 (大学の事情により教員)	H408実習中 実習終了時	観察記録 レポート

(5) 薬剤を造る・調べる

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《院内で調製する製剤》					
1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H501実習中	実地試験
2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など)(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	H502実習中	実地試験
《薬物モニタリング》					
3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	H503実習中	実地試験 (データ解析) 観察記録 (討議時の態度を 観察記録)
《中毒医療への貢献》					
4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する。(知識、態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	H503実習中	口頭試験 観察記録

(6) 医療人としての薬剤師

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 学生 教員	H601学習中 H601終了時	口頭試験 観察記録 (実務実習まとめの 討議と発表時の 質疑応答時) レポート
2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度)					
3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)					
4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					
5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)					
6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)					

2-4. 薬局実習評価（案）

(Ⅲ) 薬局実習

(1) 薬局アイテムと管理

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬局アイテムの流れ》					
1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 教員 (努力目標)	I期の始め (1wk)	口頭試験
2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。					
3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。					
《薬局製剤》					
4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P102終了時	口頭試験または 論述試験
5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P103実習中	実地試験
《薬局アイテムの管理と保存》					
6 [△] . 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P104学習中	口頭試験 または 論述試験
7 [△] . 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。					
8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	I期終了時	実地試験
《特別な配慮を要する医薬品》					
9 [△] . 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。	形成的	知識 態度	指導薬剤師	P105終了時	口頭試験 および レポート (日誌に記載)
10 [△] . 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。					
11 [△] . 法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)					

(2) 情報のアクセスと活用

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《薬剤師の心構え》					
1. 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師・ 教員	実習期間を通して	観察記録
2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)					
《情報の入手と加工》					
3 [△] . 医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P202学習中	シミュレーション (筆記型)
4 [△] . 基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)					
5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P203学習中	シミュレーション (筆記型)
6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	P204学習中	シミュレーション (筆記型)
7 [△] . 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P205終了時	口頭試験
8 [△] . 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P206学習中	シミュレーション (筆記型)
9 [△] . 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師	P207学習中	シミュレーション (筆記型)
《情報の提供》					
10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	P208学習中	シミュレーション
11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	P209学習中	シミュレーション
12 [△] . 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じ取る。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師・ 教員・学生	Ⅲ期終了時	観察記録

(3)薬局調剤を実践する

SBOs	目的	対象	測定者	時期(参考)	方法
《保険調剤業務の全体の流れ》					
1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる	形成的	知識	指導薬剤師 学生	P301終了時	口頭試験
《処方せんの受付》					
3. 処方せん（麻薬を含む）の形式および記載事項について説明できる。 4. 処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。 5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。 6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期終了時	口頭試験 または 論述試験
7. 処方せん受付時の対応ができる。（技能・態度） 8. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） 9. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度） 10. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能）	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション または 実地試験
《処方せんの鑑査と疑義照会》					
11. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能） 12. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能） 13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション または 実地試験
14. 疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度） 15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）	形成的	知識 技能 態度	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション
《計数・計量調剤》					
16. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了時、II 期終了時	実地試験
17. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期、II 期終了時	実地試験
18. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了時、II 期終了時	実地試験
19. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 20. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 21. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 22. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 23. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 24. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期始めと終了時、II 期終了時	論述試験
25. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期、II 期終了時	実地試験
26 [△] . 一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I 期終了時	口頭試験
27 [△] . 一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
28 [△] . 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
29 [△] . 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
30 [△] . 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的取扱いができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	実地試験
31 [△] . 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーション(麻薬) および実地試験 (麻薬以外)
32 [△] . 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I 期終了時	シミュレーションおよび 実地試験

《計数・計量調剤の鑑査》					
33 ^d . 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I期、II期、III期 終了時	実地試験
《服薬指導の基礎》					
34 ^d . 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能)	形成的	知識 技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	シミュレーション
37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
38 ^d . 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。				I期(1~2w)	
39 ^d . 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	シミュレーション
40 ^d . 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師 学生	I期(1~2w)	口頭試験および 客観試験
《服薬指導入門実習》					
41 ^d . 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	II期	シミュレーション および 実地試験
42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能)					
43 ^d . 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能)					
44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)					
《服薬指導実践実習》					
45 ^d . 患者に共感的態度で接する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	III期	レポート(日誌に記載) および観察記録
46 ^d . 患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	III期	レポート(日誌に記載) および観察記録
47 ^d . 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	III期	レポート および 観察記録
48 ^d . 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度)					
49 ^d . 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)					
《調剤録と処方せんの保管・管理》					
50. 調剤録の法的規制について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期始めと終了 時	口頭試験 および 客観試験
51. 調剤録への記入事項について説明できる。					
52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。					
53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。					
54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。					
《調剤報酬》					
55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	I期終了時、 II期終了時	実地試験
56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	口頭試験
《安全対策》					
57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)	形成的	知識 態度	指導薬剤師	I期終了時	観察記録およびレ ポート(日誌に記載)
58 ^d . 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	論述試験
59 ^d . 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。					
60 ^d . 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。					
61 ^d . 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	I期終了時	観察記録およびレ ポート (日誌に記載)
62 ^d . 過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)					
63 ^d . インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	I期終了時	実地試験

(4) 薬局カウンターで学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《患者・顧客との接遇》					
1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師	I 期	レポート (日誌に記載)
2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)					
3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師	II 期	観察記録
4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)					
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》					
5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)	形成的	技能	指導薬剤師	II 期	シミュレーション
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	II 期	シミュレーション
《カウンター実習》					
7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)	形成的	技能 態度	指導薬剤師 学生 教員(努力目標)	II 期	実地試験
8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度)					
9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度)					
10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)					

(5) 地域で活躍する薬剤師

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《在宅医療》					
1. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P502終了時	口頭試験および レポート (日誌に記載)
2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。					
3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)	形成的	態度			
《地域医療・地域福祉》					
4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P503終了時	口頭試験または 論述試験
5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P504終了時	口頭試験または 論述試験
6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)	形成的	知識	指導薬剤師	P505終了時	レポート (日誌に記載)
《災害時医療と薬剤師》					
7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P507終了時	レポート (日誌に記載)
《地域保健》					
8. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P508終了時	レポート (日誌に記載)
9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P509終了時	レポート (日誌に記載)
10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P510終了時	レポート (日誌に記載)
11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P511終了時	口頭試験
12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。					
13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能)	形成的	知識・ 技能	指導薬剤師	P512終了時	シミュレーション (筆記型)
14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P513終了時	口頭試験
15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。	形成的	知識	指導薬剤師	P514終了時	レポート (日誌に記載)
◎12～15 のSBOsから一つを選択する。	形成的	知識 技能	指導薬剤師 教員	II 期終了時	観察記録および レポート

(6) 薬局業務を総合的に学ぶ

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
《総合実習》					
1. 薬局業務を総合的に実践する。	形成的 (総括的)	知識 技能 態度	指導薬剤師 教員	Ⅲ期中	実地試験および 観察記録
2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度)	形成的	態度	指導薬剤師 教員	Ⅲ期中	観察記録
3. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)					

3-1. 評価(案)作成ワークショップ・会議参加者リスト

第四回アドバンスワークショップ（平成16年12月5日）

A	平野 剛	北海道大学	D	大島 吉輝	東北大学
	青山 隆夫	東京理科大学		石井 文由	明治薬科大学
	木津 純子	共立薬科大学		高島 亨	日本大学
	黒野 幸久	名古屋市立大学		渡邊真知子	帝京大学
	橋詰 勉	京都薬科大学		土屋 照雄	岐阜薬科大学
	前田 定秋	摂南大学		市田 成志	近畿大学
	手嶋 大輔	就実大学		川崎 博巳	岡山大学
	樋口 駿	九州大学		片岡 泰文	福岡大学
	安藤 正典	武蔵野大学		杉本 幹治	千葉科学大学
	西 洋壽	天神赤壁薬局		平松 正彦	平松十字堂薬局
	西田 英之	石川島播磨病院	川口 進一	市立池田病院	
B	関川 彬	北海道医療大学	E	上野 和行	新潟薬科大学
	高柳 理早	東京薬科大学		渡邊 善照	昭和薬科大学
	石井 邦雄	北里大学		大林 雅彦	東邦大学
	赤尾 光昭	富山医科薬科大学		山田 静雄	静岡県立大学
	平田 收正	大阪大学		宮本 悦子	北陸大学
	吉富 博則	福山大学		内田 享弘	武庫川女子大学
	湯川 栄二	第一薬科大学		岡野 善郎	徳島文理大学
	有馬 英俊	熊本大学		和田 光弘	長崎大学
	富岡 佳久	城西国際大学		塚本 豊久	広島国際大学
	吉川 亨	しらすぎ薬局出町柳店		瀧川 秀	滝川薬局甲東店
	旭 満里子	信州大学附属病院	石津 雅弘	京都大学附属病院	
C	竹下 光弘	東北薬科大学	F	鈴木 洋史	東京大学
	戸部 徹	昭和大学		杉山 清	星薬科大学
	石井伊都子	千葉大学		小林 大介	城西大学
	灘井 雅行	名城大学		松下 良	金沢大学
	金子 周司	京都大学		西野 隆雄	大阪薬科大学
	平井みどり	神戸薬科大学		山岡由美子	神戸学院大学
	滝口 祥令	徳島大学薬学部		小澤孝一郎	広島大学
	本屋 敏郎	九州保健福祉大学		和田 育男	青森大学
	石館 光三	帝京平成大学		大山 良治	日本薬科大学
	大原 整	(有) ひまわり薬局		日高 慎二	徳島文理香川薬学部
	後藤 順一	東北大学病院	永田 修一	桜町調剤薬局	
			河本由紀子	昭生病院	

ディレクター：井上圭三（日本薬学教育改革大学人会議座長）、井村伸正（薬学教育協議会理事長）

市川 厚（日本薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム作り委員会委員長）

タスクフォース：中村明弘（福山大学）

相本太刀夫（摂南大学）、赤池昭紀（京都大学）、入江徹美（熊本大学）

奥 直人（静岡県立大学）、北河修治（新潟薬科大学）、工藤一郎（昭和大学）

郡 修徳（北海道薬科大学）、坂本尚夫（東北大学）、山元俊憲（昭和大学）

第五回アドバンスワークショップ（平成17年5月7,8日）

A	早川 達	北海道薬科大学	D	福永 浩司	東北大学
	青山 隆夫	東京理科大学		榊 泰宏	千葉科学大学
	菅家 甫子	共立薬科大学		吉田 久博	明治薬科大学
	河田登美枝	武蔵野大学		中村 均	日本大学
	田辺 光男	名古屋市立大学		渡邊真知子	帝京大学
	橋詰 勉	京都薬科大学		脇屋 義文	北陸大学
	前田 定秋	摂南大学		足立 哲夫	岐阜薬科大学
	手嶋 大輔	就実大学		北小路 学	近畿大学
	島添 隆雄	九州大学		川崎 博巳	岡山大学
	西田 孝洋	長崎大学		原 周司	福岡大学
	永田 泰造	日本薬剤師会		出石 啓治	日本薬剤師会
	安部 好弘	日本薬剤師会		尾島 勝也	日本病院薬剤師会
上坂 康子	日本病院薬剤師会	木村 康浩	日本病院薬剤師会		
B	関川 彬	北海道医療大学	E	中村 仁	東北薬科大学
	富岡 佳久	城西国際大学		上野 和行	新潟薬科大学
	高柳 理早	東京薬科大学		田口 恭治	昭和薬科大学
	黒山 政一	北里大学		佐藤 光利	東邦大学
	赤尾 光昭	富山医科薬科大学		賀川 義之	静岡県立大学
	平田 収正	大阪大学		宮本 悦子	北陸大学
	吉富 博則	福山大学		内田 享弘	武庫川女子大学
	飯原なおみ	徳島文理大学香川		三宅 勝志	広島国際大学
	荒牧 弘範	第一薬科大学		岡野 善郎	徳島文理大学
	有馬 英俊	熊本大学		樋口 駿	九州大学
	高橋 寛	日本薬剤師会		宮崎長一郎	日本薬剤師会
	大原 整	日本薬剤師会		高橋浩二郎	日本病院薬剤師会
	山本 育由	日本病院薬剤師会		桂 敏也	日本病院薬剤師会
	C	竹下 光弘		東北薬科大学	F
戸部 徹		昭和大学	伊藤 晃成	東京大学	
佐藤 信範		千葉大学	杉山 清	星薬科大学	
北澤 式文		帝京平成大学	大井 一弥	城西大学	
野田 幸裕		名城大学	松下 良	金沢大学	
西川 元也		京都大学	羽田 理恵	大阪薬科大学	
平井みどり		神戸薬科大学	徳山 尚吾	神戸学院大学	
土屋浩一郎		徳島大学薬学部	小澤孝一郎	広島大学	
本屋 敏郎		九州保健福祉大学	大山 良治	日本薬科大学	
平松 正彦		日本薬剤師会	永田 修一	日本薬剤師会	
曾根 清和		日本薬剤師会	白井 裕二	日本病院薬剤師会	
土屋 節夫		日本病院薬剤師会	西井 諭司	日本病院薬剤師会	

ディレクター：市川 厚（日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム
作り委員会委員長）、緒方宏泰（日本医療薬学会 医療薬学教育委員会委員長）
井村伸正（薬学教育協議会 理事長）

オブザーバー：乾 賢一（日本医療薬学会 会頭）、森 昌平（日本薬剤師会）
関野秀人（厚生労働省）

タスクフォース：相本太刀夫（摂南大学）
入江徹美（熊本大学）、奥 直人（静岡県立大学）、工藤一郎（昭和大学）
郡 修徳（北海道薬科大学）、坂本尚夫（東北大学）、中村明弘（福山大学）
山元俊憲（昭和大学）、上村直樹（株式会社ファーマック 富士見台調剤薬局）
菅家甫子（兼参加者：共立薬科大学）、木津純子（共立薬科大学）
木内祐二（昭和大学）

実務実習指導システム作り委員会－評価案作成作業

《主催》科学研究費井上班，薬学教育改革大学人会議「実務実習指導システム作り委員会」

《日時》平成 18 年 2 月 15 日（水）午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分

《場所》日本薬学会 2 階 A 会議室，1 階 C 会議室

《参加者》ディレクター：井上圭三（薬学教育改革大学人会議座長）

・実務実習指導システム作り委員会委員

中村明弘（福山大学），相本太刀夫（摂南大学），入江徹美（熊本大学），
北河修治（新潟薬科大学），工藤一郎（昭和大学），山元俊憲（昭和大学）

・委員以外の参加者

阿部芳廣（共立薬科大学），木内祐二（昭和大学），木津純子（共立薬科大学），
戸田 潤（昭和薬科大学），早川 達（北海道薬科大学），
平井みどり（神戸薬科大学），平田收正（大阪大学），山岡由美子（神戸学院大学），
吉富博則（福山大学）

日本薬学会薬学教育改革大学人会議 実務実習指導システム作り委員会 実務実習モデル・コアカリキュラム評価案作成ワーキンググループ 第 1 回「実務実習モデル・コアカリキュラムの評価（案）」の見直し作業

《日時》平成 18 年 8 月 28 日（月）12:30～17:30

《場所》日本薬学会 2 階 A、B 会議室

《参加者》郡 修徳（グループリーダー：北海道薬科大学）

工藤一郎（アドバイザー：昭和大学）

明石貴雄（東京医大病院）、木津純子（共立薬科大学）、高橋 寛（佐野薬局）、
中澤一純（千葉大学医学部附属病院）、中村明弘（昭和大学）、山元俊憲（昭和大学）、
吉富博則（福山大学）

2. 大学教員のための薬局実習指導の手引

大学教員のための薬局実習指導の手引

～初年度版～

報告書

平成20年3月

(一部抜粋および追加)

- 日本薬学会薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会
実務実習環境整備委員会
- 日本薬剤師会
実務実習に関する特別委員会

日本薬学会薬学教育改革大学人会議の実務実習指導システム作り委員会と実務実習環境整備委員会は、大学教員による実務実習指導体制のあり方について検討するため、平成18年1月に「病院実習、薬局実習での大学教員による学生指導のあり方に関するワークショップ（第六回アドバンストワークショップ）」を開催した。また、実務実習指導システム作り委員会は実務実習モデル・コアカリキュラムでまだ提示されていなかった評価案（参考資料5として一部抜粋）を平成18年11月に取りまとめ、平成19年3月には「実務実習の総括的評価のあり方に関するワークショップ（第七回アドバンストワークショップ）」を開催した。

両ワークショップにおいて参加者より実務実習における大学教員の役割として、「適切な時期に実習施設を訪問し、学生の実習進捗状況を確認し、指導および評価を行う」ことが提案された。実習施設を訪問して学生の指導・評価を行う大学教員は、実務家教員だけでは実施困難であり、多くの教員が担当する必要がある。一方、実務実習期間中も他の学年のカリキュラムは進行中であり、実務実習の指導・評価に関与できる大学教員の人数と時間に制限があることも考慮しなければならない。そこで、実務家以外の教員を対象とした「大学教員のための実務実習指導の手引」を作成する必要性がワークショップにおいて強く提言された。

実務実習指導システム作り委員会では、ワークショップで提案された「大学教員のための実務実習指導の手引」の内容について協議を重ね、実務実習のスケジュールとリンクして大学教員の関与を具体化することが有用であるとの結論に達した。しかし、実務実習モデル・コアカリキュラムに方略は示されているが、具体的な実習スケジュールについては明示されていなかった。日本薬剤師会「実務実習に関する検討委員会」は平成19年8月に薬局実習モデル・コアカリキュラムに準拠したスケジュールアップを行い、11週間の薬局実習のスケジュール（案）が初めて提示された（資料4）。病院実習のスケジュールは施設ごとに異なる可能性が高いが、薬局実習では日本薬剤師会によるスケジュール（案）が例示されたので、「大学教員のための実務実習指導の手引」はまず薬局実習を対象に作成することとした。薬局実習における大学教員の関与を具体化できれば、病院実習に対しても同様の関与が必要となるであろう。

そこで実務実習指導システム作り委員会は、実務実習環境整備委員会、日本薬剤師会実務実習に関する検討委員会と共同で、「大学教員のための薬局実習指導の手引（案）」作成作業部会を平成19年11月21日に日本薬学会長井記念館において開催した。本作業には、各委員会、日本病院薬剤師会、厚生労働省、文部科学省から計21名が参加し、2グループに分かれてワークショップ形式で「大学教員のための薬局実習指導の手引（案）」の作成を行った。

ここに本作業部会の議論をまとめることができたので報告する。今後は本案に対する意見を広く聴取し、必要に応じて内容を改訂すると共に、病院実習に関する指導の手引（案）についても検討を行う予定である。

平成20年3月

日本薬学会薬学教育改革大学人会議
中村明弘、山元 弘、柴崎正勝

大学教員のための薬局実習指導の手引 初年度版（案）

多くの学生は大学近郊の施設で実務実習を行うと予想されるので、以下の内容は原則として大学近郊の薬局で実習が行われる場合の手引である。遠隔地における指導の手引については改めて検討し提案する。

1. 薬局実習に向けた準備：平成21年6月～平成22年4月

1-1. 実習施設の決定と契約（大学として）

平成21年6月末：大学ごとの実習先リストと承諾書を文部科学省に提出

平成21年7月以降：大学と施設が個別に契約（学生名はまだ開示しない）

1-2. 学生担当教員の決定

平成21年9月まで：学生担当教員を決定する。学生担当教員は正、副2名が望ましい

1-3. 実務実習事前学習の開始にあたって：「実務実習記録」の作成

平成21年9月以降～：「事前学習」開始直前に「実務実習記録」の作成を開始する。

☆自己紹介欄への記入

- ・学生は学生担当教員と面談を行いながら記入
- ・「学生データ」として記入する事項（*必須）
 - 氏名*
 - 生年月日
 - 現住所：市郡まで
 - 帰省先：市郡まで
 - 連絡先住所：大学とする*
 - 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）*
大学実務実習窓口（事務室など）*
- ・「自己紹介」として記入する事項
 - 自己紹介
 - 4年次までの学習について
 - ・好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）
 - ・所属研究室：
 - ・総合薬学研究（卒業研究）のテーマ：
 - 将来の希望

1-4. 実務実習事前学習中の役割

- ・事前学習中の学生担当教員の役割については、各大学で検討
 - 事前学習のレポートあるいは日誌の確認など

1-5. 実務実習事前学習の終了後

- ・学生は担当教員と面談を行いながら、以下の項目を「実務実習記録」に記入
 - 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか）
 - 病院実習・薬局実習に臨む抱負
 - 事前学習の自己評価
 - ：事前学習で得意だった内容と今後の課題
- ・学生は、担当教員とともに以下の項目について確認し、「実務実習記録」に記載
 - 学生の健康に関して
 - ・健康診断記録（実施日、特記事項）
 - ・予防接種・免疫学的検査の記録
 - ・その他の特記事項
 - 加入保険について
 - ・損害賠償保険
 - ・傷害保険
 - 守秘義務に関する誓約書*
 - ・「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」
 - ・「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」
- ・「担当教員からの病院実習・薬局実習に関する希望」を「実務実習記録」に記載
 - 実習内容について
 - 例) 事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容の検討を依頼する
 - 指導のあり方について
 - 例) コメントは Positive - Negative - Positive
 - その他

補足. 実務実習関連事項

- ・平成21年11月～12月：実務実習指導薬剤師対象の説明会
 - ：実習施設の指導薬剤師対象の説明会開催（主催は実務実習地区調整機構）
- ・平成22年1月末：施設ごとの実習スケジュールを大学に提示

1-6. 薬局訪問

平成22年2月～4月中旬：担当教員が薬局を訪問

- ・大学としての実習内容に関する希望を伝え、内容について調整する
- ・実習施設と大学でスケジュールの調整
- ・学生担当教員と指導薬剤師で訪問指導と評価等に関する調整と確認（3月～4月中旬）

○大学教員は指導薬剤師に実務実習シラバスの内容を伝える。

- ・総括的評価（合否判定）の方法

合否、点数、多段階

評価の基準、項目ごとの比率など

指導薬剤師の役割

指導薬剤師の測定・価値判断の結果がどのように反映されるか

平成22年3月追加

- ・実務実習記録を持参

（大学等で開催し、別の日に学生担当教員が薬局見学を実施することもできる）

1-7. 学生に対する個別オリエンテーション

平成22年4月中旬：担当教員が学生と個別面談し、以下の内容を確認

- ・実務実習（病院・薬局）スケジュール、注意点などの確認
- ・スケジュール表（実務実習記録に含める）
- ・注意点
- ・評価方法など

平成22年4月下旬：学生は以下のことを実施

- ・指導薬剤師に電話などで注意点などを確認
- ・通学ルート、所要時間などを確認

2. 薬局実習における指導と評価（平成22年5月以降）

2-1. 実習期間を通して

- ・「実務実習記録」は大学が原本を管理：指導薬剤師と学生が共有するための工夫が必要
- ・担当教員と学生の連絡
 - 最初の4週間は毎週、大学で実習状況を確認する。
(大学に学生が来ることが困難な場合は、電話やメールでも可)
 - 5週目以降は、頻度を減ずることもできる。

2-2. 実務実習開始後

①初日

- ・地区薬剤師会での合同オリエンテーションの開催（薬剤師会行事）
- 守秘義務、実習薬局以外での実習の確認
- 当該地区で実習する学生の担当教員が参加することも必要性に応じて考慮

②初期（1～2週目）

- ・担当教員は、学生の実習初期の適応・取組状況を的確に把握
- ・予め学生の取り組み状況を把握した上で、薬局を訪問
- 目的：形成的評価
- 対象：「薬局アイテムと管理」、「薬局調剤を実践する」の学習内容（スケジュール）、
学生の態度、モチベーション
 - (1) 薬局アイテムと管理《特別な配慮を要する医薬品》の評価（評価の手引：赤）
- 評価者：指導薬剤師、学生担当教員、学生
- 被評価者：学生、指導薬剤師、学生担当教員
- 方法：
 1. 指導薬剤師－学生担当教員の二者あるいは学生を加えた三者面談
- 記録：
学生担当教員が必要事項（確認項目を事前に決定）を「実務実習記録」に記載する。
(「中断」に至る場合など総括的評価に影響を及ぼす内容は必ず記録として残す。)

③中期（4～7週目）：

- ・目的に応じて適切な時期に薬局を訪問し、訪問時までに実施したすべてのLSについて形成的評価を行う。
- ・訪問時に担当教員は、以下の例のように、「評価の手引」における“実習の進行に応じた評価（赤）”を実施することが望ましい。
- (3)薬局調剤を実践する《計数・計量調剤の鑑査》P315において、学生の実習状況を観察して到達度を測定する。その時点での形成的評価に加え、習熟度を記録して総括的評価の資料とする。(評価の手引：赤)

- (3)薬局調剤を実践する《服薬指導入門実習》P 321 において、ロールプレイの相手を務めて、学生の習熟度を評価する。その時点での形成的評価に加え、習熟度を記録して総括的評価の資料とする。(評価の手引：赤)
- (3)薬局調剤を実践する《服薬指導実践実習》P 322 において、学生の服薬指導を見学して確認する(評価の手引：赤)。この時点では形成的評価とする。
- (4)薬局カウンターで学ぶ《カウンター実習》P 406 において、学生の顧客対応を見学して確認する(評価の手引：赤)。この時点では形成的評価とする。

④総合実習期間中(10～11週目)

- ・担当教員と指導薬剤師が協力して(6)薬局業務を総合的に学ぶ《総合実習》P 601 において、目標到達度を確認・記録し、総括的評価の価値判断を行う。評価にはチェックリスト・評定尺度などの評価表を用いる。
 - 1時間程度で総括的評価の測定、価値判断を指導薬剤師と一緒に行う。
 - 処方せん調剤を2枚程度
- ・(2)情報のアクセスと活用《薬剤師の心構え》P 201、(6)薬局業務を総合的に学ぶ《総合実習》P 602 における態度領域の目標到達度については、レポートをもとに面談して確認・記録し、総括的評価の資料とする。実習終了後に開催する大学での発表会において、指導薬剤師も出席して討論できる機会を作り、そこでの学生の態度を最終的総括的評価の判断材料とすることも考慮すべきである。

3. DVD薬学教育実務実習指導のポイント

「共に学び 共に育つ～輝け！未来の薬剤師たち～」

内容解説